若者を信じよう！

保育士を目指す学生（１５０名）への授業が始まった。いつものように「知識は教えない。自ら思考し責任ある行動ができる人間になるように、その機会となる授業を進める」と最初に宣言した。第一日目は、思考することの大切さを事例を交えて話し、次に自らの「生きる命（生命）」を考えさせたく、宇宙カレンダーの話とミドコンドリアから見ると９人の母親から人類は派生したことに触れた。例年通り、出欠チェックを兼ねて感想文を提出して貰った。

「人の生命の大切さ、自分が生まれて存在することの不思議な気持ちが残った」、「同じミドコンドリアを持つ人に会いたい」、「祖先を遡ればみんな家族かもしれないのに、先生がいうように戦争するなんて愚かで、悲しい」等に類する感想が多かった。生命は、自分だけのものでないことを感じてくれたようである。

一方、「人間として、ひとりの女性としての人生観や人との関わりについてなど、目には見えないけれど人が生きていく上で最も大切な学びを、今日は学ばせていただいたように思います」、「教科書だけでは学べない何かを学べるような気がします」、「話を聞いて、学んで問う（学問）ことの大切さ、難しさを感じました。人間と関わりを持ちながら、言葉の意味を探してゆきたいです」、「お話を聞いて、色々考えさせられるものがありました」、「明日不幸になるために生きてるんじゃないのは当たり前なのに、意識したことがなかったので、はっとさせられた」、「この授業を通して、今一度生きる意味や意義について考えたいと思います」、「この授業は、とても自分を考える良い時間になると思うので、真剣に取り組みたいです」、「来週からの授業が本当に楽しみで仕方ありません」、「先生の授業は他の先生の授業と違って、話の一言一言が、心の中にずっしりとくるものでした」、「みんな私語をしていなかったので、引きつける力があるんだなあと思いました」等、何人か一時間目の授業だけで、こうした僕の授業の意図を感じ取ってくれた学生がいたことは、話す僕とすれば(^_^)。今後の授業は、これでかなりマイペースでよさそう。一時間目にして学生を阿部ワールド（？）に引き込めたかな？

捻挫（少しひびがある）の私を見て、「最後に、とても足が痛そうなので、どうか無理せず、ずっと椅子に座っていてください。わたしらもずっと座っているのですから。」と、優しい記述に(;_;)。

（2003 年 09 月 28 日　記）